



学校だより アンケート特集号

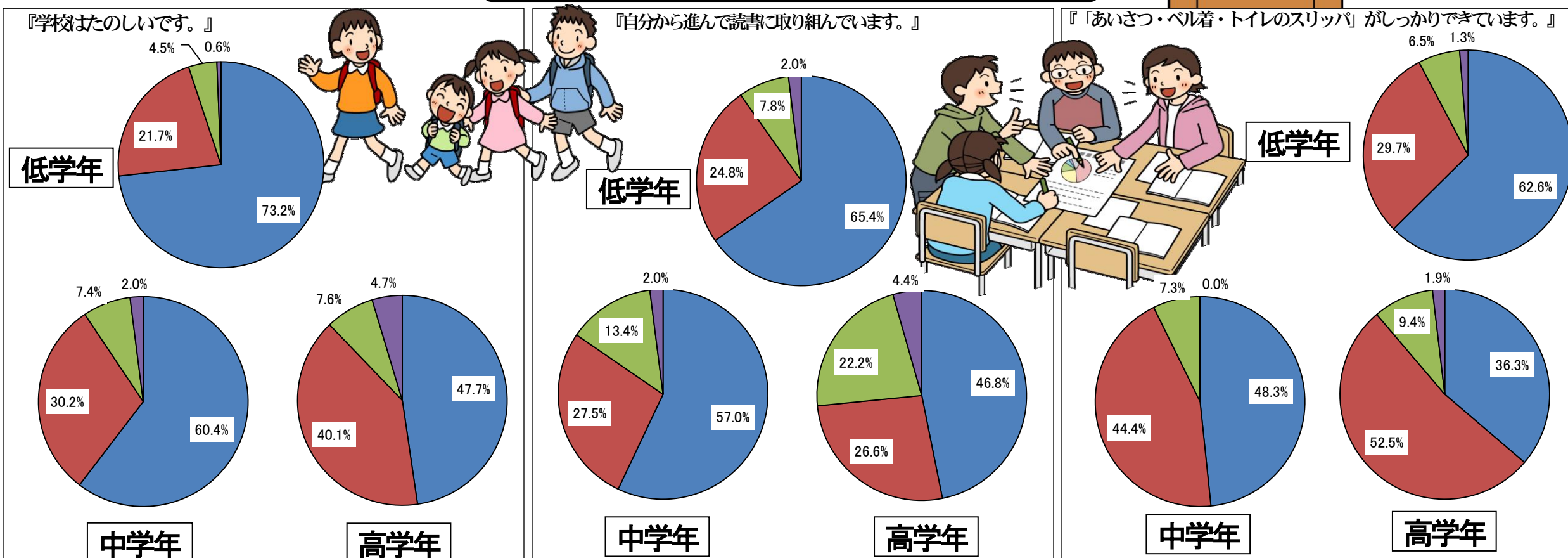
第1学期の児童アンケート結果です。結果の集計とそこからわかる傾向と今後の課題について、考察してみましたのでお知らせいたします。

低学年・中学年・高学年と学年が進むにつれて各項目の割合はどう変わっていくかを調べました。

令和元年9月
京都市立桂東小学校
校長 志村 光司



子どもたちのアンケート結果から（1）



“とても楽しい” “まあまあ楽しい” を合すると、低学年・中学年は90～95%ぐらいを推移しており、高学年も87.8%と結構高い数字となっており、うれしく思っています。しかし、前回“楽しくない”がどの学年も0%でしたが、今回は学年が上がるにつれて増え、高学年では5%近くに達しています。

学年が上がるにつれて学習が抽象的になり、難しくなってきます。学習のことや友だちのこと…など、要因はいろいろなことが複雑に関連しています。個人差のある問題でもあるので、個々にじっくり話を聴いて、保護者の皆様とも連携をとりながら“楽しい学級・学校”にしていきたいと思っています。

行事をはじめ、いろいろな取組に子どもたちが主体的に取り組めば、充実感・成就感が感じられ“楽しい”と感じられると思います。2学期お運動会、学習発表会…など大きな行事があります。子どもファーストの取組にしていきたいと考えています。

保護者アンケートの実現度では、“よく出来ている”は低学年29.3%、中学年18%、高学年22.1%です。“出来ていない”は低学年7.3%、中学年12.2%、高学年13.6%です。子どもたちの自己評価とはかなりの開きがあります。この温度差は何か、家庭でのようすが把握できていないので、推測するしかありません。学校での子どもたちの様子を観ていると、よく本を読んでいるなという印象です。ただ、気になるのは“読書の質”です。発達段階に応じた選書になっているとは言えない状況です。正しい選書ができるように指導していきたいと思ひます。「読み聞かせを小さいときはよくしていたけれど…？」という声をよく聞きます。読書はよいことだと分かっているけど「もっと本を読みなさい。」と言うだけで終わっていることが多いのではないのでしょうか。絵本や長編の本を読み聞かせることで、子どもたちは新たな本や、話の続きを楽しむようになります。「次は…？」と子どもたちがわくわくと期待できるような読書をあり方を考えていきたいです。

低・中・高学年ともに、保護者のアンケート結果と児童のアンケート結果との温度差が大きい項目です。この項目には、“あいさつ” “時間を守る” “履物をそろえる” という3つの要素が入っております。保護者のアンケート結果が良くないのは、“あいさつ”が出来ていないことが児童のアンケート結果との温度差になったと思います。

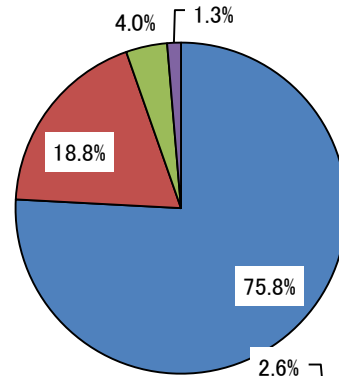
ところが、普段の子どもたちの様子を見ていると、学校の中ではあいさつができていても、一歩、学校の外に出ると、地域の方々にあいさつができていない子どもが目立ちます。ただ、「誰にでも…」というのは怖いと感じる時代です。怖いというのは、とてもさみしい、難しい時代になったと思いますが、せめて顔見知りの人には、しっかりあいさつできるようにしていきたいものです。今後も“人・もの・時間を大切にする”この3つの視点で、学校と家庭で共に子どもたちを育てていきたいと思っています。ご理解・ご協力よろしくお願い申し上げます。



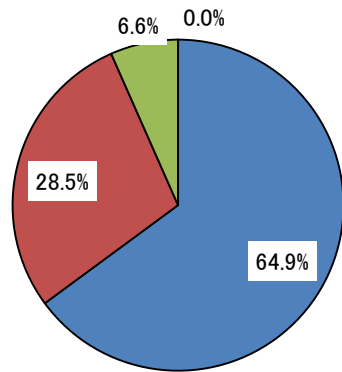
子どもたちのアンケート結果から（２）

『学校のきまりや社会のルールをしっかり守っています。』

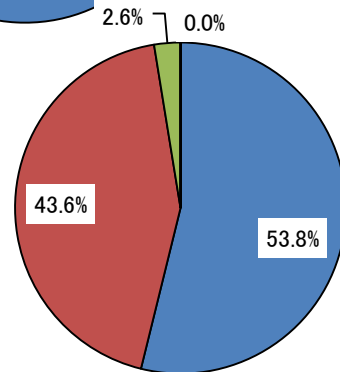
低学年



中学年



高学年

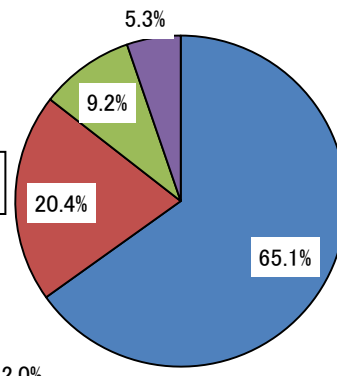


“よく出来ている”と“大体出来ている”とを合わせた肯定的な回答は、低学年・中学年・高学年ともにほとんど差異はなく、93%～97%と高水準を推移しています。ところが、保護者アンケートの実現度では、30～34%と低い結果となっております。子どもたちと保護者の間にこれほどの温度差があるのは、学校では出来ているが、家庭や地域では出来ていないということになると思います。

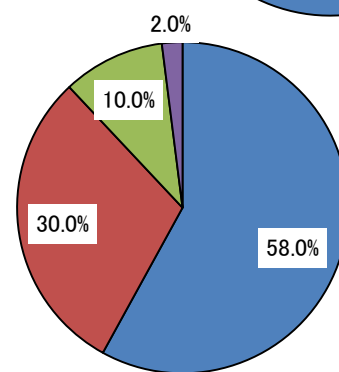
学校では、友だちと一緒に遊んだり、協力して清掃活動に取り組んでいます。また、運動会、学習発表会…など、大きな行事で友だちと協力してやり遂げる充実感・成就感を味わうような具体的な活動を通して、自分が変わっていくことを実感させ、子どもの中の価値を強化していくことで規範意識は育まれるものと考えています。また、学校では、子どもたちにわかりやすいように、よくスポーツを例に挙げて、ルールがあるからみんなが安全で安心してスポーツを楽しめるのだと指導します。ご家庭でも各ご家庭の事情に合った指導で子どもたちの規範意識を高めていただければ…と願っております。今後とも、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

『健康に気をつけ、食事が好き嫌いなく食べています。』

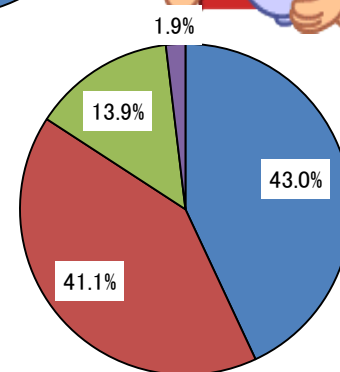
低学年



中学年



高学年



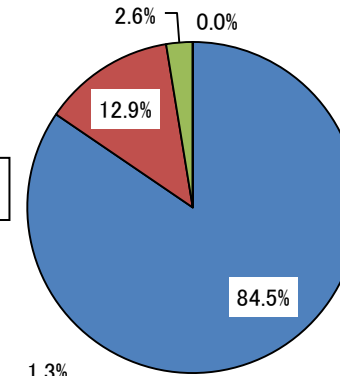
“よく出来ている”と“大体出来ている”とを合わせた肯定的な回答は、低学年85.5%、中学年88%、高学年84.1%という結果となっております。前回よりもどの学年も10%減となっております。“出来ていない”も前回低学年と中学年は0%であるのに、今回はどの学年も2～5%前後増えています。

食育と学力、食育と健康いろいろなところで語られております。子どもたちの食習慣が整い、体調もよくなると、丈夫な身体を作り、学校を休まなくなり、病気に罹っても快復が早いこと、そして夜ぐっすり眠れる子になり、朝の目覚めがよく、学校へ行くのを嫌がらない、といった傾向が見られるようです。また、なにより集中力が高まるので、成績向上と食習慣は密接だと思います。

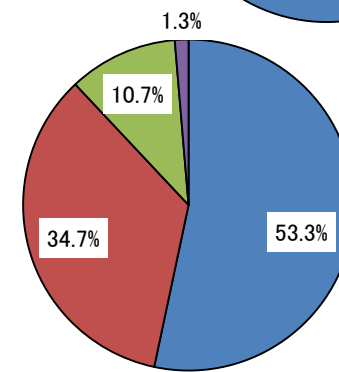
本校では、給食の残菜もほとんどなく、栄養教諭による各学級での食の指導も充実しております。着実に成果が現れております。また、学校では和やかな雰囲気の中で、みんなと一緒に食べる喜びや楽しさを味わいながら食べております。各ご家庭でも進んで食べようとする気持ちを育てる食卓の場の設定にも十分配慮をお願いいたします。

『家でしっかり学習しています。』

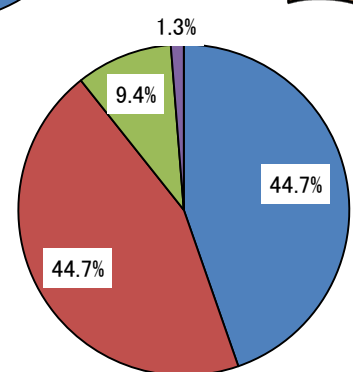
低学年



中学年



高学年



“よく出来ている”と“大体出来ている”とを合わせた肯定的な回答は、低学年は97.4%、中学年・高学年は90%に届かない数字を推移しております。“出来ていない”という否定的な回答、低学年0%、中学年・高学年はいずれも1.3%となっております。

低学年の場合、家庭での学習は、教師から与えられた課題に取り組んで終わっていることが多いように思われますが、学習する内容がはっきりしている点で取り組みやすいと思われます。中学年・高学年はそれなりに主体的な学習に取り組んでいるようです。自分で学習する内容を考えて取り組む難しさがああり、その点で、低学年より否定的な回答が多かったと考えられます。

中学年・高学年でも子どもさんのお話を聞いていただくことが大事だと思います。丁寧に聞いてあげることで、どこがわからないかなど、はっきりして自分が取り組むべき課題が明確になってくるのではないのでしょうか。保護者の皆様もお忙しいので難しいとは思いますが、いろいろな方法はあると思いますが、このことを繰り返すことで、家庭での学習の習慣化を図っていただければいいかなと思います。

